

①
。

はじめに

1 部長挨拶

この度は2024年度一橋大学鉄道研究会研究誌をお手に取っていただきありがとうございます。本年度部長、佐野蒼一郎でございます。

今年度の研究テーマは「地域と中小私鉄」です。現代日本の人口減少の中、中小私鉄は、弘南鉄道大鰐線の存廃が争われていることなどにみられるように、厳しい状況に立たされているものと考えられます。

その一方で、中小私鉄でありながらも、伊予鉄道は新型車両を導入し、えちぜん鉄道は中古車両でありながらも観光列車を走らせる取り組みを始めるなど、事業拡大ないし将来に向けた投資の姿勢が見受けられ、ひたちなか海浜鉄道に至っては、路線延伸事業まで行っています。

すなわち、各地方鉄道は望ましい状況の中で、地域交通を維持するため、或いは発展させるために運営の新しい在り方を模索しているものと考えられます。そしてこれは、今後の日本における鉄道を論じるうえで極めて重要な動向であり、そこで私たちは今年度の研究テーマを「地域と中小私鉄」に確定しました。本誌では、全国各地の地方鉄道を調査し、そこから私たちが現在提唱できることを模索しました。

本誌の構成は以下の通りとなっております。まず、2章では中小私鉄における現状につき、全体的な考察を加えました。続く3章では具体例を用いた調査を行い、4章ではそこから得られる現状をもとにした提言を行いました。

末筆ではありますが、本研究そして一橋祭をはじめとした弊会の活動に日々お力添えをいただいている如水鉄路クラブの皆様、そして本誌をお読みいただく皆様に厚く御礼申し上げます。

2024年度一橋大学鉄道研究会部長
法学部3年 佐野 蒼一郎